

四国地区合同研修会を終えて

副会長 柳原 宰

去る八月二十三・二十四日、四国地区より神青会員、氏青会員が一堂に会し、道後プリンスホテルに於て、「奉祝 天皇陛下御在位六十年」のスローガンのもと、研修会を開催しました。今回は我が愛媛神青再発足十五周年の年にあたり、十五周年記念の講演を皇学館大学学長の田中卓先生をお招きして、広く一般神職の方にもご参加頂き、盛大に催す事ができました。御参加頂いた会員の方々、又一般神職の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げますと共に、今後共御理解御協力の程をよろしくお願い申し上げます。

さて、二日間の研修は、パネルディスカッション「我々が理想とする天皇制度の形態はどの様なものであるのか」戦前と戦後を比較して、「田中先生の講演「天皇と日本」、百地先生「教科書問題と憲法」、伊佐爾波神社正式参拝、親睦ソフトボー

ル大会等、非常にバラエティに富んだ、内容の濃いものでありましたが、今研修会を終えて私を感じますのは、日本独自の天皇というものの存在についての、我々会員の勉強が、まだまだ足りないという事です。日本国にとって天皇様の御存在は、

どういう意味があるのか？我々国民と天皇とはどういう絆で結ばれているのか？そういった事柄を、氏子の人々にわかりやすく伝えるのが、我々の務めでありましょう。本年は御在位六十年という事で、マスコミ等も、天皇陛下の素晴らしいお人柄を語るエピソードを盛んに取り上げておりますが、陛下のお人柄と天皇の本質とは全く別の次元のものであります。お人柄の素晴らしさというものの讚美と天皇論というものは、全然別次元のものであるということになります、はっきりさせておかなければならないと思えます。

しかしながら、この太平の世の中で、こういう事を人々に話すというのは、非常に困難な事であります。新聞もテレビも、会社も、組合も、現代の人々の日常目にし、耳にし、つき合うものごとくが、およそ天皇とか皇室などとは無縁のものであります。

そういう中で、我々の奉仕している神社や神社の祭というものは、氏子の人々に天皇陛下と自分達との関係について、思いおこすことのできる唯一の機会が与えられる場所だといっても過言ではないでしょう。

この様に考えると我々の使命というのは非常に重大なものがあります。国体の尊厳護持というのは、我々神道青年会の目的の一つではありますが、「国体」の問題とは、要するに我が国が一つの国としてまとまっている、そのまとまりの中心となるものは何か？という事でありましょう。

日本国独特のこの天皇について、我々は何となく深く掘り下げて勉強し、そして、氏子の人々に天皇陛下と我々とはいかなる絆で相結ばれているのか、そのことに、目を開いてもらえる様、努力していかなければならないと思えます。

非常に大切な事を考えさせられ、また反省させられた今回の研修会でした。

また、研修会最後の親睦ソフトボール大会では、忙しい中繰り合せて参加頂いた、高田氏のすばらしいピッチングと、全員の闘志あふれるプレイによって、見事我が愛媛県が優勝して、有終の美を飾る事が出来ました。次回は徳島で今夏行なわれませんが、打倒愛媛を目指して各県共精鋭を送りこんでくると思いますので、会員皆様の奮っての御参加をお願い申し上げます。



熱戦ソフトボール

第十三回 四国地区 神原氏青

合同研修会

講演 「天皇と日本」

皇学館大学教授

田中卓

先程、パネルディスカッションで天皇と日本の問題につきまして、皆さんの熱心な御討議がありまして私くしも拝聴しておりましたいろいろな感ずる処が多いのであります。

まず第一に如何にして日本の国体の秀れている事、あるいは天皇陛下の事について氏子の方々、私共にとつては学生諸君、それで今の学生諸君が入学して来て、如何にして国体の問題、天皇の問題を話するかという事は重大であります。しかし同時に、お考え頂きたいと思つては、人に説くという事ではなくして自身自身がどのように理解するかという

事が大前提になる訳であります。自分でわかつていないのに人に説く事はできません。まず自分がこういう問題についてどのように考へているかという事が第一でありまして、人に説くのは第二であります。その意味でお互いに自分はどう考へるかという事について、御意見を賜りたいという事で先程も司会の方から、あるいは参加の方からも御意見があったことかと思つて、そこで私くも自分自身がどう考へているかという事をこれから許された時間をお話する訳であります。しかし実を申し上げますとこの問題は一時間や二時間、お

話しましてそれでわかつたという風な簡単な事ではないのです。この問題を十分にお話する為には何回もかけて申し上げなければおわかり頂けないでしょうし、私くしの気持ちも申し述べ得ないと思つて、しかしそうはまいりませんのでわずかな時間で最も大事な問題に絞つてこれからお話を致します。

まず日本の国というものを考へて頂きたいと思つて、現在日本の国には一億二千万人がいるといわれています。つまり国民といわれるものであります。その一億二千万人といわれる人々の祖先というものを考へてみたいと思つて、一番わかりやすくする為に自分自身の事を考へてみたいと思つて、私が一人いる訳ですが、私の両親がいます。この二人の親には、また両親がいます。それぞれ二人ずつ在ります。そこでこれをひとつ逆昇つて頂きましょう。どうなるか？十代逆昇りますと丁度千人になる訳であります。私くしが生れて来る為には十代逆昇りますと千人の祖先が必要なのです。計算して頂けばすぐわかります。そこで今度は二十代逆昇りますと億数が出ますけれど、約百万人必要なの

です。三十代逆昇りますと十億人の祖先が必要になるのであります。四十代逆昇りますと一兆一十億人の祖先が必要になるのであります。これは誰にでも出来る計算でありまして、そこでお考え頂きたい。今十代とか二十代とか申しました「代」というのは、だいたいわんゼネレーションで三十年という事になっております。三十年ずつ四十代逆昇りますと千二百年となりまして、千二百年前というの時代で申せば奈良時代であります。奈良時代は八世紀といわれております。八世紀の時代がつまり四十代逆昇つた時代なのです。そこで考へて下さい。私が現在存在しているけれども、その存在している人間の祖先をずっと考へて行つて奈良時代までたどり着いたら私の祖先の総数は実に一兆一十億人を必要とするのであります。そうでなければ私は生まれて来ない訳です。それは私人の問題です。それは皆さんも御同様の、現在すでに一億二千万人いる訳です。これは疑う事のない事実なのです。そのことをお考え頂きますと、一体我々の祖先は何人いるのかということになります。ところが、逆に申しますと奈良時代、今から千

二百年程前の時代に於ける日本人の総人口はいくらか、と申しますとこれははっきりわかりません。が私は古代史の専門家ですからその立場で申しますと、まず常識的には五、六百万人と云われているのであります。これでは計算が合わないのではないかと？奈良時代に於いて我々の祖先といわれる人々が、五、六百万人と一方では云う。一方では逆算していけば大変な数、数え切れない程の数が在なければ話が合いません。どうしてそういう矛盾が起こって来るかと云いますと、それはどこかで皆な重複している訳であります。その事をよく考えますと、お互いに顔、形が皆な違っていますけれども祖先をたどって行きますと、第一この島国ですからよそからどんどん入り込んだ訳ではないのです。そういう島国に於いて祖先を皆共通しているという事がわかる訳です。文字通りこれを同胞と云うのであります。これは明瞭なる事実でしてこの気持ちというものが無いと歴史もわからないし、日本の国体もわからない。そして誰にでも理解できる話なのです。ですから皆、同胞なんだと云う事を理解して頂きたいと思えます。それから今、

奈良時代まで逆昇ってお話をしたのですが、それ以前の日本の国はいったいどのようにして発展して来たのであるかと申しますと、これは古代史の学者によっていろいろ意見があります。差があります。しかしながら何人と云えども疑う事の出来ないのは大和朝廷というものが出来た。いつ出来たという年代についてはいろいろ意見があるのです。戦前ですと二千六百年前だという風によく云われたものであります。しかし今日の古代史学会ではもつと新しいそれより六百年ぐらい新しいという説もあればもつと新しい三世紀、四世紀だという学者もあります。しかし、私自身は大和朝廷の成立はだいたい西暦で申しますと一世紀前後だと考えておりますけれども、その年代はいずれにしましても、ともかく大和地方に一つの政権が出来た事は疑う事が出来ない訳です。たとえそれが何世紀であらうとも、一つの政権が出来たことなりますとそのリーダーのいた事も認めざるを得ないので。何も無しに生まれる訳ではなくてそれを中心にリーダーとして指導して来られた人がいた事も明らかであります。この一人のリーダーと云うのを当時

の人は伊波礼毘古と呼ばましたし、のちに奈良時代に於いて神武天皇と申し上げるのであります。これはどの歴史学者、古代史学者と云えども認めざるを得ない事実であります。一つの政権が出来て、リーダーがいて、そのリーダーを日本書紀、古事記では伊波礼毘古と申し上げている訳です。そして奈良時代になって神武天皇と名前を変えている訳です。これを漢風師号と云います。支那風の送り名をたて奉った訳です。その大和朝廷というものが大和に出来てだんだん発展していつて今の日本国になった訳です。神武天皇の皇統がずっと続いて今日の天皇に及んでいく訳です。よく神武天皇は架空の人物だという説がありますが、これは議論の逆立ちであります。なぜかと云いますと私共が神武天皇と申し上げるのは、現在の天皇の、あるいは皇室と呼んでもよろしいのですが、その祖先の方を申し上げている訳であります。天皇はなにも木の股から生まれられた訳ではないのです。天皇の現人神と申し上げますけど体は人間でいらっしやる訳です。生まれて来ない存在されない訳です。その御祖先というものをずっとたど

って行きますと、神武天皇にたどり着くのです。神武天皇が架空であるはずはありません。もし架空であったならば祖先が架空でどうして子孫が実在でありうるのでしょうか。私共は今上陛下は実在として見ている訳です。その実在の方の祖先を問題にしているのですから、祖先の方が架空であるはずは絶対でない訳です。問題はこの実在の方がいつの時代の方であるかと云われたら学者の説はいろいろ分かれるだけの事です。その実在なる方が大和朝廷を開かれて、だんだん発展して今日の日本になった事も明らか事実なのです。でありますから神武天皇を架空の存在なんて云うのは論理の逆立ちであります。その点をよくお考え頂きたい。これが例の建国記念の日二月十一日の問題に皆な直結してくる事なのであります。二月十一日を建国記念の日に制定する時に当時の建国記念を制定する為の審議会が開かれまして、その会の委員というのが十人在ましてその人達がいろいろな学者の意見を聞くという事がありました。私くしは古代史が専門ですからその代表の一人として招かれました。もう一人は東大の資料編纂所長のタケウチリゾ

ウ教授でありました。二人が総理府の大講堂で話をした経験があります。その時にもそういう事ははつきり申し上げておきました。今の建国記念の日の事につきましても私くしは神社界を挙げてもっともっと盛んに御祝して頂きたいと思うのです。ところが、学校教育などでは建国記念の日、二月十一日は嘘の日だと云う人がいます。特に日教組はそうですね。それでそう云う言い方をするものから、なにかこう積極的に御祝が出来ないような気持ちに神社界がなっているのです。そういう事ではいけないのであって、もっと筋道をしつかり理解して頂きたいと思うのです。それはどういう事かと云いますと建国記念の日というのは祝日なのです。祝日を決めるのには、二通りの決め方があるのです。一つは事実の日であります。たとえば天皇の御誕生日四月二十九日です。成人の日というのは事実の日であるか？ありえないでしょう。成人の日というのは満二十歳の御祝なのです。満二十歳になるのは皆違う日です。ですからみんなが満足する成人の日と云うのはありえないのです。そこでそう云った場合どうしたかと云いますと最も

ふさわしい日をもって充てるとなつたのです。成人の日は一月十五日ですが、これはもともと小正月と云われたものであります。正月は元旦として祝がありますので、そこで最もふさわしい日として一月十五日を持つて来ただけなのです。五月五日は子供の日と云いますけれども、これは端午の節供にちなんで子供の日をおいただけであります。三月三日でもかまわない訳なのです。いつの日でも子供の日にあててかまわないのです。十一月三日文化の日だと云いますけれども、これももともと明治天皇の明治節でありました。ところが占領軍が明治節を置いてはいけないと云うので仕方なしに名前を変えまして明治時代に日本の近代文化が栄えましたから、この日に文化の日を置いただけの事であります。そのようにして事実とは直接関係ないけれども、ふさわしい日だと云うので決めた日がある訳です。(次号へ続く)



御在位60年ワールド駅伝



四国地区研修会

日本人と神道

清家貞宏

キリスト教、イスラム教、仏教などの世界宗教に対し、神がある特定の人間集団(部族あるいは民族など)に恵みを与える(特定の人間集団の生命の拡充を図る)と信ずる宗教がいわゆる「民族宗教」と呼ばれ、日本の神道は日本民族固有の宗教なのであります。

神道は、日本人にとって、ごく身近かに存在している宗教であります。習俗として、必ず、何がしかのものを身につけています。見ることもあれば、聞くこともありますが、あらためて「神道とは何か」と問われると、よほど神道に接近している人でも、明確には答えにくいのです。専門家でも、必ずしも十分な用意をもって答え難いとなげくし、又、知っていることより、知らないことの方が多いのです。

禅宗のお坊さんが、八十何歳かの長寿で亡くなった時に、もちろん、葬式は仏葬でやりましたが、通夜の晩

に酒を出すというのは、葦酒山門に入るを許さずとかかけているのに矛盾した話でもあります。長寿をためてたいからとか、何とか理屈をつけていますが、これは神道が残っていて、酒がでるのです。お通夜だけではなく、盛んに酒がでてくるのです。四十九日が終わると、浜降りをする所があります。

浜降りとは、川へ行つて、そこで酒食を喫したり、子供に菓子をやつたりすることですが、これは、一種の禊で、魏志の倭人伝にも出てくる日本の古俗であります。伊弉諾尊が亡くなった妻の伊弉美尊を死の国（黄泉）に訪れた後、橿原で禊をなされたのも、浜降りであったと言へます。

最近では、掛売りをする店が少なくなりましたが、昔は、一年に二回、節季の勘定をすることにきめて、掛売りをしている商人が多く、現金売りの方が少なかったのです。門松や、昨日の鬼が礼に来ます。昨日の鬼、すなわち年末の掛売りの債鬼が、正月になると、「旧年中は有難う存じました。本年も相変わらぬ」と年頭の祝儀を申しにやってくることを歌っています。この二季の支払いは、

すなわち、抜いで、大抜があるので。そして、家は大払い（大掃除）をして清めて、罪・穢・災を抜く。貸・借の関係も清算するのです。一切を水に流して、新しくして、生まれ変わって、新玉（新魂）の年の始（初春）を迎えるという、このような、古代の神道習俗から発展した生活の形式が現代にも生きています。

七月三十一日は八幡神社のワヌケ祭でありましたが、ワヌケ祭の中で「茅の輪くぐり」と「人形の抜」の二つの神事も、日本人が昔から季節の変わり目毎にお祭をして心をあらため過去を反省し、明日への新しい出発を誓うという伝統的行事なのであります。

朝起きて、手を洗い、口をそそぎ、顔を洗って、太陽を拝んだり、神棚を拝んだりして、また、夕方には、風呂につかかって、身を清めて、神棚に灯明をともし、夕飯をいたゞいて寝ます。ご飯は、何でも、まず神様にそなえて、その後に取りまします。頂く時には、「たべる」といいます。が、「食う」という人間は、ガラが悪い、行儀知らずが使う悪い言葉である。と教えられます。どうしてかと言うと、「たべる」は「とうぶる

（賜ぶる）」すなわち「賜わる」で、神様から頂くという意味の古い言葉なのであります。

このように、神道は生活の中に生きていくものが多いのです。しかし、「では、神道とは何か」と聞かれると、ハッキリしないのが民族宗教の生感であり、扱いにくい点なのです。

神道を明らかにするものは、自己の理性を信じきった観念の論理ではなく、神道の事実と伝承に対する正しい探究であります。その事実・伝承とは、第一に祭祀、第二に古典、そして第三に歴史であります。

第一に祭祀とは、宮中の祭祀、神宮の祭祀、神社の祭祀、家庭の祭祀、及び民俗的祭祀であります。第二に古典とは、先づ、古事記や日本書紀のように、ある時には「神典」とさえ呼ばれる種類のもの、次に、「神皇正統記」・「直毘盃」のような種類のもの、前者は、神道の本質を伝えたものであり、後者は、神道の本質に迫ろうとする誠意と努力との結晶であり、また神道を護り伝えるために、生命をかけた魂の記録であります。そして第三に歴史は、神道が日本国家の運命と日本国民の生

活とを護りそだててきた過程を、事実を以て示しています。

一言でいうならば、これらは「伝統」というべきものでしょう。神道は、教祖によって開かれた信仰ではなく、素朴・原始の信仰から、高められ、純化されつゝ、本源的なものを守り伝えたものです。具体的に言うならば、神道を高め、純化する契機となったのは、神武天皇の建国であり、神道の心を更に深めたのは国家二千数百年の歴史であった訳で、日本国は、神道を立国の基盤とするこ



神青会の行事に

御協賛賜り

厚く御礼申し

上げます。

昭和六十一年度 寄附助成者御芳名

(順不同)

金拾萬円也

石鏡神社 武智 昭典殿
伊予豆比古命神社 長曾我部勝殿
和靈神社 三輪田元亮殿

金五萬円也

大山祇神社 三島 喜徳殿
愛媛県護国神社 波爾 荘殿
金參萬円也

伊曾乃神社 葛城 光彦殿
吹揚神社 田窪多理甫殿
姫坂神社 沼崎 嘉吉殿

多賀神社 久保凸四丸殿

一宮神社 矢野 哲夫殿

三島神社 越智 大介殿

金貳萬円也

玉生八幡神社 平田 茂光殿
加茂神社 池内 克水殿
蔵島神社 柳原 磐根殿

三島神社 吉田 充邦殿
八幡神社 清家 貞雄殿
三島神社 一宮 博信殿

神社庁 久方 支部 殿
神社庁 八幡 支部 殿
神社庁 東予 支部 殿

神社庁 北宇和 支部 殿
神社庁 北宇和 支部 殿
八幡神社 渡部 正殿

金老萬円也

土居神社 矢野 耕一郎殿
熊野神社 田辺 捷殿
白山神社 大岡 益子殿

嘉母神社 石川 漢見殿
高智神社 高橋 正雄殿
橋新宮神社 高橋 三郎殿

東宮神社 十亀 司老殿
森岡神社 十亀 興美殿
石岡神社 越智 寿殿

石岡神社 玉井 忠臣殿
矢矧神社 田窪 吉典殿
網敷天満神社 菅 光正殿

天神 阿部 義文殿
石清水八幡神社 芥川 利夫殿
和靈神社 阿部 吉康殿

別宮大山祇神社 高田 周成殿
三嶋神社 越智 静治殿

樟本神社

大浜八幡神社 別府 一司殿
龍神 松垣 杜次殿
天満宮 小池 稜威雄殿

大井八幡大神社 櫛部 浄文殿
高浦八幡大神社 矢野 宗保殿
八幡神社 福田 貢殿

三島神社 馬越 鶴敏殿
須賀神社 藤原 裕博殿
伊佐爾波神社 野口 光敏殿

金刀比羅神社 波爾 倫敬殿
多賀神社 堀 晴夫殿
三島神社 能田 隆三殿

金刀比羅神社

雄郡神社 山下 幸伸殿
三嶋大明神社 高市 健吾殿
阿沼美神社 大内 信磨殿

井手神社 横田 政昭殿
勝岡八幡神社 武智 雄三殿
正八幡神社 重松 讓殿

波賀部神社 武智 圭色殿
正八幡神社 権名津 千風殿
日招八幡大神社 玉井 正素殿

正友神社 武知 盛晃殿
伊予豆比古命神社 長曾我部 延昭殿
阿沼美神社 田内 逸和殿

日尾八幡神社 三輪田 長貞殿
生石八幡神社 中西 明殿
湊三嶋大明神社 渡部 定詮殿

松山神社 正岡 定幸殿
大宮八幡神社 真鍋 和敏殿

還態八幡神社

高忍日売神社 後藤 正健殿
大宮八幡神社 和氣 須賀雄殿
住吉神社 辻田 盛雄殿

八幡神社 清家 貞宏殿
天満神社 薬師神 桑宜殿
天満神社 岡本 龜男殿

三島神社 福永 久幸殿
八幡神社 日野 諄二殿
湯神社 大宮 四郎殿

桑原八幡神社 石丸 長誠殿
神社庁 西宇和 支部 殿
飯積神社 葛城 光彦殿

杉尾神社

三島神社 近藤 昭典殿
周布神社 伊佐芥重康殿
国津比古命神社 井上 忠衡殿

神社庁 北条 支部 殿
神社庁 宇和島 支部 殿
八幡神社 常磐井 守興殿

丸之内和靈神社 三瀬 勝史殿
金六万円也
瀧神 近藤 儀貞殿

堀江神社 合田 千里殿
網敷天満神社 広川 栄太郎殿
橋八幡大神社 馬越 政應殿

奥坂神社 宮本 担殿
弓削神社 宮原 浄人殿

